

2025 年 9 月 30 日

味の素株式会社

生産設備データ標準化コンソーシアム

「生産設備データ標準化コンソーシアム」設立のお知らせ



味の素株式会社、味の素食品株式会社、カルビー株式会社、サントリーホールディングス株式会社、ハウス食品株式会社、株式会社明治および食品関連機械の業界団体である一般社団法人日本包装機械工業会は、2025 年 7 月に「生産設備データ標準化コンソーシアム（以下、本コンソーシアム）」を設立いたしました。

本コンソーシアムは、食品製造業の生産設備が持つ多様なデータを収集・利活用することにより「製造 DX」を推進し、食品製造業の生産性向上や品質向上に活かすために、生産設備データに関する標準規格の策定を目指します。食品製造業のなかでも比較的共通性が高い包装工程をターゲットに、国際的に広く使われている規格をベースに、主にデータ仕様と通信方式の標準化を検討していきます。

標準規格が普及することにより、専門知識がなくてもデータ利活用が容易になり、中小企業でも低コストで生産性向上や品質向上に取り組めることを期待しています。具体的には予防保全・品質管理・稼働率の向上など、製造プロセスの高度化やスマートファクトリー化に展開させることで、食品業界全体の DX 推進や競争力強化にもつながると考えています。農林水産省など関連省庁とも連携しながら、標準規格の普及を目指します。

設立の背景

食品製造業は、他の産業と比べると労働集約型の産業であり、今後更に人材確保が困難になる中、さらなる省人化や生産性向上、品質保証の高度化といった様々な課題に直面しています。これらの課題を解決するためには、生産設備データの利活用による業務変革が不可欠です。

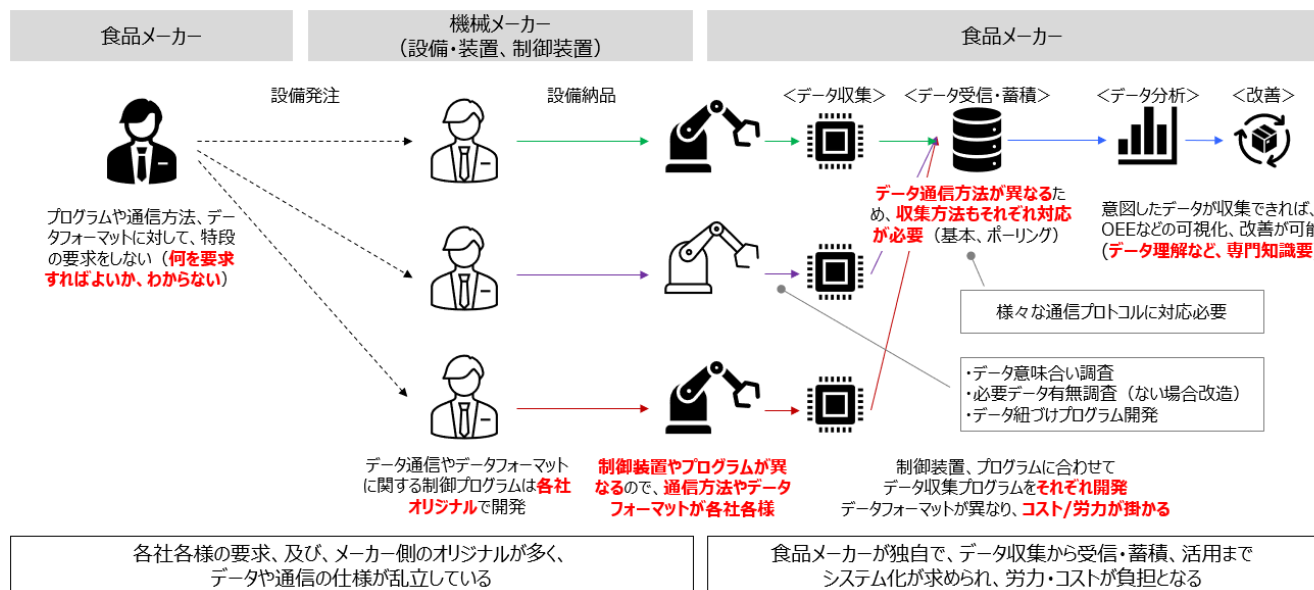
しかし、現状では設備ごとに通信仕様やデータ形式が異なるため、データの収集・統合・分析が難しいという課題があり、生産設備データの標準化が求められています。また、包装機械業界においても、設備の持つデータを最大限活用できる環境整備が求められています。

そのため、生産設備データの標準化が求められています。こうした業界共通の課題を解決するため、食品メーカー6社と食品関連機械の業界団体1団体が結集し、コンソーシアムを設立する運びとなりました。

食品製造業におけるデータ利活用の課題と目指す姿

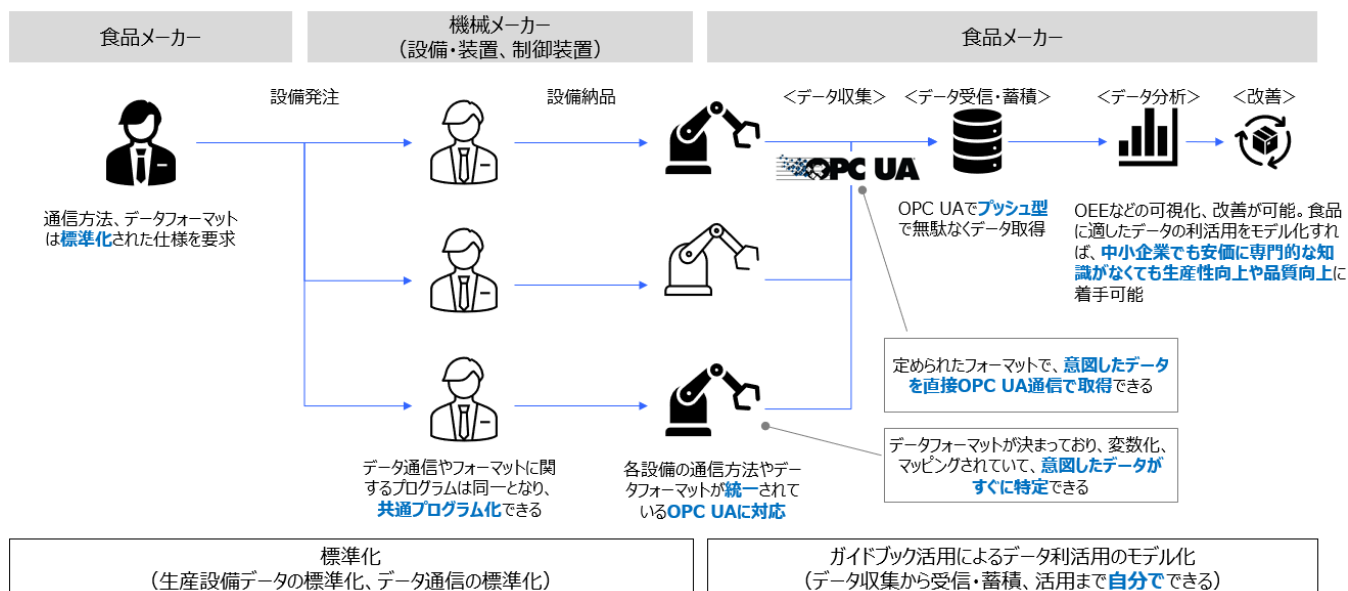
【課題】

- 食品製造業における生産設備データの標準規格がなく、機械メーカーのデータ仕様・制御プログラムなどは各社各様です。また、食品メーカーの要求仕様も各社各様のため、機械メーカーは、食品メーカー各社向けのプログラムをオリジナルで開発する傾向にあります。
- 結果、多種多様なプログラムとデータ仕様が存在し、食品メーカーは、各設備のデータ仕様・プログラムの対応が求められ、データ収集・活用に掛かるコスト/労力が増大し、機械メーカーも開発効率化が課題となっています。
- また、データ通信方法も共通化されておらず、複数の通信仕様を把握・理解し、それぞれの通信仕様に対応する知識、技術が必要です。



【目指す姿】

- 食品メーカーは標準化された仕様を要求し、機械メーカーから提供されるデータ仕様・プログラムが共通化されることにより、食品メーカーの対応も共通化されます。データ利活用の実現に向けた活動が大幅に効率化され、安価に専門的な知識がなくても生産性向上や品質向上に着手可能です。機械メーカーも標準化により開発効率が向上します。
- 生産設備データの収集方法が標準化されることで、大手食品メーカーに留まることなく、中小企業にもデータ利活用が促進されます。それにより、食品業界全体の生産性向上・品質向上に寄与し、消費者に幅広く安心・安全な製品を届けることにつながります。



主な活動概要

- 生産設備データの標準化（通信規格、データ仕様）、食品製造業と食品関連機械製造業間の合意形成
- 標準規格による生産設備データ利活用の検証（含むモデル実証）、ガイドブック作成
- 上記ガイドブックの活用および標準化の普及の促進
- 農林水産省をはじめとした関係官庁との情報連携・提言

参画企業・団体（2025年7月現在）※五十音順、敬称略

味の素株式会社
 味の素食品株式会社
 カルビー株式会社
 サントリーホールディングス株式会社
 ハウス食品株式会社
 株式会社明治
 一般社団法人日本包装機械工業会
 アビームコンサルティング株式会社（事務局）

代表

味の素株式会社 食品事業本部 食品生産統括センター長 宇田 茂平

問い合わせ先

生産設備データ標準化コンソーシアム 事務局（アビームコンサルティング株式会社）

E-mail : CSPED@abeam.com